

文化財 NEWS

こちらのQRコードから、閲覧・ダウンロードができます→



文化財パトロール ～ 只見町 ～

9月4日(水)、明和公民館において、只見町の県指定重要無形民俗文化財である「小林・梁取の早乙女踊と神楽」の文化財パトロールを行いました。

只見町的小林地区、梁取地区では、それぞれの地区で早乙女踊り、神楽が行われてきました。両地区は近隣ではありますが、それぞれに特徴があり、その歴史や内容を比較すると大変面白いです。

当日は、小林早乙女保存会の会長 梁取哲朗さん、梁取芸能保存会の菊池明さんから、現在の実施状況や課題についてお話を伺いました。



小林早乙女踊りと小林神楽

小林早乙女保存会では、小林早乙女踊りと小林神楽を伝承しています。

小林早乙女踊りは、豊作と家内安全を祈念して旧暦の正月(現在は2月の第1土曜日)に踊られる民俗芸能です。慶長十年(1605年)の大凶作の頃から始まったということで、400年以上もの歴史があります。若い女性2人の踊子が、苗植えやしらかきなどの所作を歌に合わせて踊り、男性1人が道化として激しい動きで一同を笑わせます。明治初めの頃、女性が踊って不作となったことから、男性が踊るようになったそうです。

小林神楽は、独特の調子とさびをもった、落ち着いた感じの獅子舞いです。他の神楽と比較して特徴的なのは、「雨だれ拍子」という、一定の間隔で拍子をとる点だそうです。



↑会長さんが踊ってくれました。

↓下記QRから
動画が見られます。「うつくしま電子事典」
福島県教育委員会

梁取太々神楽と早乙女踊り

梁取芸能保存会では、梁取太々神楽と梁取早乙女踊り、蚕養万歳を伝承しています。

梁取太々神楽は、南会津町界地区にある鹿島神宮の20年に一度の遷宮に奉納される踊りです。素朴な落ち着きがある中にも、ひょっとこの滑稽な動きもあり、見る人を飽きさせません。現在では「只見ふるさと雪まつり」などでも行われています。

梁取早乙女踊りは、南会津地域に伝わる早乙女踊りと同様、文化年間1804年以降に会津盆地から伝わったと思われます。梁取地区でも、女性ではなく、男性が踊るそうです。

蚕養万歳は、早乙女踊りに先立ち行われるもので、養蚕業の繁盛を願う祝い唄です。



梁取太々神楽 「福島県教育情報データベース」より

明和小学校では、地域での交流や伝統の継承、「只見愛を育む教育」の実現につなげることを目的に、地域の伝統芸能について学習しています。

小林早乙女踊りは3年生が、梁取神楽は4年生が、それぞれの保存会の方から踊りや演奏、お囃子などを学び、その成果を地域の人達に発表します。

保存会の方に話をお聞きすると、会員の中心は40～50代とのこと。次世代に貴重な文化を伝えていくためにも、学校との連携は欠かせませんね。

